

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり1階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H23年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年11月11日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

言葉遣いには注意しており日頃の申し送りの中でも、話をしています。相手が不快に感じれば、暴言や虐待にもつながってくるので、注意して声掛けしていく様にして下さいと言っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は利用者の支援に携わっていた職員が新しく管理者に着任している。ケアマネージャーとコミュニケーションを取りながらこれまでの方法を基本に、これまで課題であった運営推進会議を2ヶ月一度開催したり、言葉のヒヤリハットを記録し集約して今後の支援に活かすなど意欲的に様々な取り組みを行っている。地域との交流では、自治会長の協力により、小学校PTAに働きかけ総合学習として組み込まれ「認知症」についての講義を行うなど相互に連携できる関係を築いている。利用者ひとりひとりをよく見て、認知症特有のそれぞれの症状に合わせ個別のケアができていないことは、本人、家族の安心に繋がっていると云える。又、介護支援計画の中身が理解できるようカンファレンスには全職員がかかわり作り上げている。新人職員が多い事業所としての工夫が随所に見られ、今後の発展が期待できる事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者及び、職員は、理念を共有し、場所、人問わず、常に感謝の思いやりの気持ちを持ち笑顔で接する様に心掛けている。	職員は年度初めの4月に理念についての研修を受講している。夏祭りの練習時など職員が楽しむことで利用者が楽しめるということを指導している。主任は日々の申し送りの中で利用者との楽しい会話・対応の心掛けを伝えているが、職員によっては理念の理解が不足している。	職員一人ひとりが「理念は利用者のケアプランや日々の支援へと繋がる基本である」と理解することで、更なるサービスの質の向上に繋がることが期待できる。職員全体で理念を共有するための工夫検討が望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収の協力や市民大清掃等に参加している。	自治会へはダンボールの寄付をし、事業所側もペットボトルキャップを頂くなど交流している。自治会長は事業所との関わりに熱心であり、小学校・PTAに働きかけてもらったことで、訪問できるきっかけとなった。また、小学生も事業所を訪問し、利用者へ写真に言葉を添えて届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の総合学習や自治会の定期総会に参加させて頂き、また運営推進会議に参加して頂いたりしながら、認知症の方々への理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者及び、御家族、自治会の方にも参加して頂き、施設の現状、行事報告を行い、意見、要望等、聞きながら活かしている。	偶数月と定め今年度は2ヶ月に1度定期的に開催している。規程のメンバーが参加し、活発な意見交換を行っている。虐待に関する勉強会は、自治会長からも喜ばれ、避難訓練については、話題にあがったこともあり、今後、自治会の参加を募っていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設の運営の中で、わからない事等、直ぐに伺いをいれ、情報収集を行いながら、連携を図っている。	法人内同系列事業所全体による月1回の会議に地域包括支援センターや市の保健師を招き、虐待に関する講義を受講している。市への連絡は、新規の利用、事故などその時々直接電話等で相談や報告を行い、事業所の問題を即決するため協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り、行いながら、自由に行動して頂き、また統一したケアが出来る様 ミーティング及び、申し送りの確実性の再確認を行う。	身体拘束の禁止についてミーティング等で職員に伝えている。ケアの時間の流れ、夜勤体制の工夫等により拘束のないケアを心掛けている。拘束と見られる事象については、ヒヤリハットの申し送りで必ず職員が目を通すようにしている。ただし、職員によっては身体拘束の理解に差がある。	利用者の人権を守る上において最も重要である身体拘束のないケアのために、具体的な事例、行為等を含め全職員で身体拘束に関する理解を深めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内、外での研修に参加し、虐待について学ぶ機会を設け、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修会及び、法人内研修への参加等行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、一つ一つの項目について、御家族に説明し、納得、同意の上、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を用意し、本人、御家族が無記名にて記入して頂ける様にし、重要説明書に施設、病院窓口の連絡先を明記している。	家族への連絡時には、本人の様子を詳細に伝えている。家族からの意見・要望に関しては、本人の意思も十分に尊重しながら聞き取り対応している。家族からの「利用者の部屋が見えないように」という要望を受けて防災カーテンを設置したという例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のテーマを決め、全体で考える場を設け、意見交換行っている。	管理者は、日々の申送りの中で、職員の意見を聞き、更に職員一人ひとりと話す機会を作るよう心掛けている。夜勤・休暇については本人の希望を優先して、働きやすい職場作りに努めている。日常的な備品の購入希望等も管理者へ伝わり、反映できる体制が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し勤務表作成しながら、再確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に研修記録記入して頂き、悩みや感じた事を気軽に書いてもらい、管理者がコメントを残し、コミュニケーションを図っている。また、法人内、外の参加の呼びかけも行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や、同グループ内の研修に参加し、他の施設の方々と交流及び、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、話しを傾聴し、安心して頂ける様 信頼関係、馴染みの関係を築く努力を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、入居者の生活習慣や御家族の悩まれていた情報を収集し今後のケアに役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に面談を行い、その時に得た情報や生活暦を全職員で共有し関わりを図る際、役立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	集団の中での関わり以外にも、時々、個別に居室を訪問し話を傾聴しやすい雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日々の生活状況を訪問しながら、本人にとって何が必要とされているか、見出す努力を行い、必要に応じて、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所の際、本人の使い慣れた物や、大切な品を持ってきて頂いたり、御家族協力の基、外出や外泊を行っています。	地元の老人会や友人の面会があったり、互いに電話で親交を暖めたり、手紙での交流など様々な関係継続が行われている。また、馴染みの美容院、法事、結婚式、墓参りなどは家族の協力を得て出かけ、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が上手くコミュニケーション取れる様 職員がクッション役になったり、入居者が孤立しない様 個別に話を傾聴を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、本人、御家族とこれまでの関係を大切に、希望があれば相談、情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者及び、御家族の希望、要望を基に、少しでも希望が叶う様 支援を行っている。	普段の支援で、つぶやきや表情から意向や思いを汲み取れたものは記録し職員間で共有している。発語困難な場合は、筆談で会話するなど利用者の意向を汲み取るための工夫を行っている。職員はマンツーマンで話せる場を作り、傾聴に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前に、情報収集、入所時に再確認を行い、その後は本人と関りながら、詳しい内容を把握していく努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の個人記録を記入しながら、一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達可能な方は、本人及び、御家族の意向を盛り込みながら、職員一人一人の意見も反映させている。	前回のモニタリングを基にスタッフで見直しをしている。カンファレンス後に家族に要望を聞き計画を作成している。基本的には3ヶ月に一度見直ししており、本人の身体レベルの変化によってはその時に見直ししている。支援計画はフロアに置き、職員に周知しているが、日々の記録との連動が確認できない。	利用者の生活の基盤となる支援計画は、職員が行う支援と連動するものであり、新人職員にも意識付けの手助けになるよう日々の記録を行うことの検討工夫に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態に変化があれば、その都度話し合いを設け、日々の記録や、申し送りを行いながら、プラン作成に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、御家族の状況を把握し、物品購入や、美容室にお連れしたり、希望があれば個別に買い物等もお連れしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民大清掃や、廃品回収に出すダンボールを寄付したり、その時に自治会の方よりペットボトルキャップを頂いています。小学校との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際、母体である医療機関の説明を行い、本人及び、御家族の納得の上、要望をふまえながら、適切な診察を行っている。夜間の緊急対応指示も出して頂く。	契約時に説明し、母体の医療機関にかかりつけ医の移行に同意を得て支援している。その他心療内科、整形外科、透析などは個別に専門医を受診しており、職員が同行支援している。受診結果は家族に報告し、職員間でも共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱や体調に変化が見られる際は、母体である医療機関に連絡し、指示を出してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子を記入した用紙を、退院時には入院時の様子を記入した用紙をやり取りしながら連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と密に連絡を取りながら、本人の希望や苦痛の軽減等、最善の方法を、医師、御家族と話し合いながら決めている。	これまでに看取りの実績はない。重度化した場合の対応に関する指針は契約時に説明し、同意を得ている。利用者の容態を見ながら家族や医療機関で相談しながら、支援している。事例として、事業所から医療機関に搬送し数日で亡くなられたこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修会へも参加しており、また急変時には医療機関に連絡し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行い、うち1回は夜間を想定して行っている。(消防署立会いの下) 今後は消防署の方と話し合い、地震、災害時の対応を行う予定です。	今年は6月に消防署立会いのもと日中想定で避難訓練を実施しており、次回は12月に講習会を含めた訓練を予定している。自治会からの参加もある。ただし、新人は訓練に参加しておらず、夜勤時の災害対応に不安を抱いている。	新人だけでなく、全職員で夜勤時の災害対応が迅速にできるよう、訓練の回数を増やすなど、工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の、自尊心を傷つけない様 常に尊敬の気持ちを持ち、心ある声掛けをしている。	トイレ誘導の際は疑問形の声かけ、名前は「さん」づけで呼ぶなど利用者の誇りを傷つけない言葉かけを心がけている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出している。個人情報 は所定の場所に保管しており、写真掲載も事前に家族等から同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に話を傾聴しながら、本人が気持ちを表したり、自己決定出来る問いかける様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や一人一人のペースに合わせて、本人の意思を最優先にし、ゆっくりとした生活を送って頂ける様な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度、美容師の来訪があり、散髪を行っているが、本人が行きつけの美容室を希望される時は、御家族の協力を得ながら希望に添える支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや、後片付け等、職員と一緒に取り組み、自分も参加しているという喜びを持って頂ける様な支援をしている。テーブル席位置等の配慮もしている。	個々の好みは利用開始時に聞き取り、誕生日には好きなものを提供している。利用者は配膳の手伝い、ごみ箱づくり、もやしのひげ根とりなどできることを手伝っている。ピクニックに手作り弁当を持参して野外で食事をすることも利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事動作、嚥下状態、体調を把握し、一人一人に応じた食事量や、形態を提供し、必要に応じた支援もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び、残渣物の確認を行い、必要に応じた支援をしている。義歯は洗浄し夕食後はポリデント液に浸している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、間隔の把握に役立てると共に、スムーズな排泄が出来るか確認を行っています。座位保持出来る方は、トイレでの排泄を促しています。	素振りや表情の小さいサインを見逃さず、きめ細やかなトイレ誘導で昼間のオムツなしを実現している。職員は排泄の自立の重要性を理解し、立ち上がり、トイレに座る一連の動作ができるよう支援している。夏には布パンツで過ごす利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を常に確認したり、水分補給を心掛けています。数日排便見られない時(三日間)は、協力医療機関に連絡し、下剤の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を行っており、その時の気分や体調に合わせ、希望の時間に入浴して頂いている。	週3日、希望の時間に各自の入浴用品で入浴することができる。湯温は足にかけ好みを聞き調節したり、車椅子の利用者も二人介助で浴槽にゆっくり浸かることができるよう個々に沿った支援をしている。入浴拒否の方にもトイレから風呂への動線を利用したり時間をずらすなどして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前、午後に関らず一人一人の体調に合わせて、休息の時間を設け無理なく過ごして頂ける様支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に処方箋をファイリングし、職員が薬の効能、副作用、用法、用量について、把握できる様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々の能力に合わせて、可能な限りお手伝いして頂き、役割を持てる様な支援をしている。気分転換に他のフロアーを訪問してお話をしたり、戸外へ、散歩にも行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアーごとにドライブやお買い物出掛けたり、季節ごとの花見やピクニック(お弁当持参)やおくんち、ランタン等のお祭りにも出向いている。	利用者の希望で地域の商店に買い物に行ったり、近所を散歩したりしている。家族の協力で外泊する利用者もいる。また、花見やイベントに行ったり、ドライブしたり、週一度受診外出などで、誰もが戸外に出かけられるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度の管理が出来る方は、希望があれば所持して頂いており、個別にお買い物へ出掛けたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より要望があれば、直ぐに電話でお話をして頂いたり、依頼があれば、手紙のやり取りが出来る様な支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、室温、清潔に心掛けており、季節を感じられる様な環境整備し、入居者がゆっくり、くつろいで過ごせる様工夫を行っている。	陽当りのよい広く明るいリビングには畳スペースがあり、洗濯物を畳んだり、昼寝をしたりの場となっている。壁には季節ごとの飾りや小学生の顔写真つきの手紙が展示され利用者をなごませている。清潔で臭気もなく、利用者が思い思いの場所でくつろげる居心地のいい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に畳スペースや、ソファを設け入居者同士 交流を行ったり一人一人が思い思いに過ごして頂ける様工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、本人の使い慣れた家具や茶碗、箸等を持参して頂き、安心して生活出来る工夫を行っている。	リビングを囲む居室入口にはそれぞれの暖簾がかかっており、部屋の目印になると共に個性を出している。各室、仏壇やタンス、テレビ、冷蔵庫、健康器具など馴染みの家具や小物が置かれている。掃除は清掃員が、細かい拭き掃除は職員が行うことで清潔が保たれた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の出来る事、得意分野を把握し、個別にお手伝い及び、軽作業を行って頂いております。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり2階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H23年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>歌がお好きな方が多い為、娯楽の時間に歌を流し入居者が歌える(声を出す)時間を作るようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者に限らず、常に笑顔を忘れずに、日々の業務を行う様 心掛けています。※「やさしく、楽しく、元気よく」は笑顔プラスの意味も含まれる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	段ボールの提供を行い、自治会よりペットボトルの蓋を頂いている。市民大清掃や、自治会夏祭りの参加等。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校4年生の総合学習に参加させて頂き、その中で”老いるとは？”からの導入で認知症の方々の理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、市役所の方、自治会長、入居者とその御家族も交え、行事報告等行っている。御家族や入居者の要望も聴いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営や書類に関しての疑問点がある時は、直ぐに伺いを入れ、情報収集を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホールから荷作りをして、出て行かれる方のケア等、カンファを行いながら、統一したケア及び、個別ケアの検討を常に行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣い、気持ちも含めどんな些細な事も記入し、一ヶ月のまとめを職員に報告しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GH連絡協議会主催や、市主催及び法人内研修に参加し、少しずつ理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所された際に、キーパーソンに対し、管理者より、重要事項及び契約書の項目に対し、説明を行っており、同意、サイン、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を設置し、苦情、要望等を無記名にて記入して頂ける様にしている。(※重要事項説明書に外部苦情、窓口の連絡先も記載している)		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内研修として、月に一回テーマを決めて研修会を行い、その時に意見伺いも含め、全体で考える場を設けている。(管理者は事業報告会を開催している)		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	タイムカードの確認及び、勤務表作成に当たり、休みの希望を取り入れる等、日々管理把握を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者とのやり取りの中で、研修記録を記入して頂き、指導内容の統一制がなされているか、悩んでいる事はないか等の聴き取りを行っている。研修の参加及び、呼びかけも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加しており、主催の研修に行った際は、意見交換をしながら、お互いの良い所を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報や、日々の生活の中で関わりを持ち、向き合って話しの傾聴を行い、馴染みの関係を築く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や、生活の中で困難であった情報を収集し、記録に残し、ケアに役立てる様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に得た情報(生活歴、趣味等)を各職員に提供し、コミュニケーションを図る際に役立てる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別ケアも取り入れ、居室にての話の聴き取り等をして、本人を知ろうとする努力を行う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望、御家族の要望 両者より聴き取り、生活していく中で、本人にとって何が必要とされているかを見出す努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に使用されていた品物を継続してホームでも使用して頂いたり、外泊中、外出の協力も行っています。(安心感を与える様な支援)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替え(スムーズに会話ができる位置)を行ったり、得意分野が発揮出来る様な誘い、促し等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療が必要で退所され、病状安定があった際は、御家族より、連絡相談入る事もあり、再入所等の検討も行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態の変化見られた際、その都度、サービス内容の検討を行う。少しでも本人の願いが叶う様、支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦等、各職員に把握してもらい、本人と関りながら、より詳しい事の発見につなげ、より良い生活が送れる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランを基に関りながら、日々の記録も重視しながら、一人一人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び、御家族の要望を伺い、職員の意見も反映しながら、ケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、モニタリングを基に、次回のプラン作成に役立てている。※過度なケアにならない様な支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きつけの美容院にお連れしたり、県外に御家族が居られる場合の物品購入の援助等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボールのを自治会廃品回収に出したり、市民大清掃に参加している。毎年 小学生との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所した際に、協力医療機関の説明を行い、了承して頂き、本人及び、御家族の要望もふまえながら、適切な診察を行っている。昼夜問わず、緊急対応の指示も出して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便秘や急な発熱等、異変あった際、協力医療機関に連絡をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、ホームでの様子を記入した用紙と退院時には、入院時の様子を記入した用紙で連携を図を行っている。(ADL,排泄、治療内容、バイタル、食事量など)		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関との連携を密に行いながら、本人の要望を伺ったり、苦痛の軽減等の最善の方法を話し合いながら方針を決める。(現在終末期ゼロ)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、心臓マッサージ(AED使用法)等の研修会に参加している。夜間の急変の際は協力医療機関に連絡を行い、24時間体制で連携を行っている。(マニュアル備え有)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回夜間想定も含め避難(火災)訓練を行っている。自治会の方にも参加して頂いている。※今後は地震、災害等の訓練も行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活暦の中から、話題の提供を行い、優しく笑顔で心ある言葉で接する様に心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団の中から表現や、自己決定が困難な方もいる為、個別ケアにて話を傾聴し「～しましょうか？」「～しませんか？」と問う様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調(バイタル、排泄、食事量)を把握し、個々に合わせた生活を支援している。(本人の意思を最優先している)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一回 美容師が訪問し、散髪を行っています。行きつけの店を希望される方は、送迎支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、片付けも含め、得意分野を発揮して頂き、一緒に参加しているという喜び、満足感を持って頂く。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量(食事、水分共に)を記録している。体調や嚥下状態、食事動作等を把握し。食事の形態、量を考えながら必要に応じて、介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び、残渣物除去の確認をしている。義歯洗浄は、ご家族に義歯洗浄剤を購入して頂き、行っている。(口腔ケア研修会参加も行き、日々の業務に役立っている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、一人一人の間隔の把握を行い、誘い、促しを行っている。残存機能の活用の為にも、夜間はベッドをトイレ側に寄せ、自力で排泄できるように配慮を行っている。(見守りを要している)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人記録に本人の水分摂取量を記入しており、常に水分補給に心掛けている。尚且つ数日排便(三日)無い時は、協力医療機関に連絡し指示を仰ぎ、下剤の調整を行って頂く。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	各フロア一室、曜日は違いますが、週三回の入浴を行っている。午前中に促し、あまり入りたくないと言われる方は、午後から誘いを行ったりしながら、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆さん高齢者でもあり、疲れやすいので、午前もしくは、午後に休息の時間を設け、無理なく過ごせる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人がどのような薬を服用しているか職員が把握出来る様、個人台帳にファイリングし、前日に薬のセッティングを行いながら、日付や、セッティングミスが無いかの再確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野を發揮して頂き、役割と達成感を持てる様 支援している。音楽鑑賞や散歩も取り入れ、メリハリのある生活を送って頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各フロアごと、季節の良い時(春、秋)月一回ドライブに連れ出している。花見、ピクニック、おくんち、ランタン等にも出向いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大半が御家族及び、県外の方は、施設が定額のお金を管理しているが、小銭程度の管理が出来る方は、個別に買い物へ出掛けたりしている。その他の方も、御家族の相談の上 出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族との関りの中で、希望によりいつでも電話を入れたり、取次ぎは行っている。手紙は依頼があった際は、本人が書かれた内容の見直し程度行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは特に共有の場であり、季節感ある環境整備を工夫しており、換気、温度に注意を払っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースでは夏場、お昼寝をしたり、交流を行える様 ソファを置き、思い思いに過ごせる配慮を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物で愛着、馴染みのある品物を持参して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ多く、御家族や、本人に生活暦を収集し、本人が生き生きとした生活が送れる様に支援している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104054		
法人名	社会福祉法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サンあぜかり3階		
所在地	長崎市豊洋台1丁目3番1号		
自己評価作成日	H23年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご家族と協力しながら、出来るだけ入居者の希望に添えるような支援をしている(外出、ドライブ、お買い物等の支援)
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	優しく、楽しく、元気よくを理念とし常に思いやりの気持ちを持ち、笑顔で接するという想いが込められている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	廃品回収の協力や、市民大清掃、地区の夏祭りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会や小学校の総合学習に参加させて頂き、認知症の方々の理解を深める努力を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者、御家族、自治会長、市役所の方々に参加して頂き、施設の行事報告、現状を報告し、その中で意見や要望を聞きながら活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設運営の事で分らない事は直ぐに伺いを入れ、連携をはかっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が拘束を行わないようにしており、ケアの行い方についても定期的に話し合いを行い再確認しながら取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待はもちろん言葉の虐待が無い様 日頃から申し送り中で話をしており、見過ごす事が無い様 気づきひやり・はっとの提出をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市主催の研修及び法人内研修等の参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所した際、キーパーソンに一つ一つ説明し確認、同意、捺印して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置したり、面会にこられた際に、意見、要望を伺っている。重要事項説明書に外部の窓口の連絡先を記載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見などがある場合は毎日の申し送りの中で発言したり、その時々に応じて職員の意見を聞くようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成行いながら把握しており、日々再確認している。希望の休みも聞き入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修として、入社初日にオリエンテーションを行い、法人や福祉について学ぶ機会を設けている。また研修記録を書きながら質問や悩みなどを記入してもらい管理者が返答している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加しており、他の施設との交流もあり、その中で良いところ等を取り入れる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、信頼関係を築く様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談や入所時に悩みや、要望を聞き、今後のケアに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に得た情報及び生活歴を各職員に情報提供し関わりを図る際、役立っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別に居室を訪問し、話を傾聴しながら本人を知ろうとする努力を行い、信頼関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、御家族の意見が合わない事がありますが、面会時に状況、状態を説明しながら本人にとって何が必要かを見出す努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に馴染みの物を持参して頂く等 配慮を行い、御家族の協力の基、外出や外泊等も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しない様 職員が間に入り、入居者同士が支えあえる様な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、本人や御家族の希望があれば、必要に応じて相談や情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の希望、要望に添える様なケアを心掛け、状態が悪化した場合は直ぐにカンファを行い本人らしい生活が出来る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報収集を行い、わからない事があれば、本人、御家族と関りながら、把握する様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録とケアプランを基に一人一人の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意思伝達が可能な方は、本人、御家族の気持ちを盛り込みながら、その中で職員の意見も反映させケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々 記録を残していき、気づきや意見があればその都度話し合い実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行きつけの美容室や理容室にお連れしたりしており、御家族が来られない入居者は物品購入等している(県外の御家族)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設が子供110番に指定されている。市民大清掃や、廃品回収、小学校と交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である医療機関の説明を行い、本人、御家族の要望を伺いながら適切な診察を行っている。不明な点や疑問があれば主治医に連絡を取り、病状説明を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常態の変化があれば、協力医療機関に連絡を取り、指示を仰いでいる。訪問看護もあるので、その時に様子を伝えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設での様子を記入した用紙と、入院中に記入した用紙だ連携を取っている。不明な点はその都度連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と密に連絡を取りながら、本人の希望や苦痛の軽減等、最善の方法を話し合いながら今後を決めている。(終末期の方は居ない)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心臓マッサージや応急処置の研修会に参加している。夜間急変した場合は、医療機関に連絡し指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難(火災)訓練を行っているが、地震や災害時の訓練を行っていない。今後消防署立会の基 行う予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手が不快に感じるような声掛けはしない様に気をつけながら言葉掛けを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取る際、本人の話をしっかり傾聴し、本人が自己決定しやすい問う様な声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのじゃなく、入居者優先ということを常に考え、本人のペースに合わせてながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のその時の気持ち、その時の季節に合わせた洋服を一緒に考えている。希望される方は御家族の協力を得ながら理髪店の送迎の支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ等、出来ることは一緒に行っている。(自分も一緒にしたという満足感を持っていただく。)		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態、体調に合わせて一人一人に応じた食事形態及び量を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア及び残渣物除去の確認を行う様にしている。義歯の方は毎食後の洗浄と、夕食後はポリデント液に浸すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックノートに記録しながら、間隔の把握、排便がスムーズに行えているか等の観察を行っている。基本的にはトイレでの排泄を促す支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や適度な運動を心掛けている。排便が三日間無い時は医療機関に連絡をし、下剤の調整をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を行っており、その時の体調や気分に合わせて入浴をしていただく様になっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調にもよりますが、午前か午後に休息の時間を作り、本人が無理なく過ごせる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人台帳に処方箋を閉じており、職員が把握出来る様にしている。薬の管理は職員が行い、誤薬等が無い様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない様に残存機能を活かしたお手伝いをして頂いている。(食事の時のお手伝い)また気分転換の為に、屋外散歩に連れ出したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望があれば散歩、ドライブ、お買い物等の支援を行っている。また時期によっては、おくんちやランタン等の祭りに連れ出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる方には小銭程度の管理をして頂き、買い物に出掛けたりした時に本人が希望する物を購入して頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話の取次ぎや、御家族に電話を入れたりしています。手紙のやり取りも希望があれば行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は常に明るく清潔にする様に心掛けています。ホール内には季節にあった飾り付けを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のスペースにはソファや畳スペースがあり、入居者同士が交流できる様にしている。一人になりたい時は居室で思い思い過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物を持参して頂き、少しでも落ち着いて過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	支援していく中で、出来る事出来ない事を見極めながら残存機能を活かした生活を送れる様に支援していく。		